

医報

Vol.23 2025.10

目

次

巻頭言	総合病院 鹿児島生協病院 那須拓馬	1
-----	-------------------	---

症例報告

病理診断に苦慮した気管支腫瘍の1例	那須拓馬	2
気管支に生じた上皮-筋上皮癌の1例	那須拓馬	10
CK7(-)/CK20(+)の極めて稀な染色パターンを示した悪性中皮腫の1例	那須拓馬	18
胃腺窩上皮型過形成性ポリープに生じた胃型腺癌の1例	那須拓馬	24
十二指腸に発生した胃腺窩上皮型腫瘍とみられる1例	那須拓馬	30
術前に診断しえた虫垂憩室症、腫瘍の1例	鈴東伸也	34

アウトリーチ実践報告

医療相談活動によるホームレス生活者支援の15年	那須拓馬	37
-------------------------	------	----

著書・論文

Platypnea-Orthodeoxia Syndrome in Coronavirus Disease 2019 Pneumonia: A Case Report and Literature Review	谷本隆彦	40
夏季に流行するウイルス感染症	谷本隆彦	47
直腸粘膜脱症候群の1例	木藤正樹	57
肺浸潤性粘液性腺癌の細胞学的検討	那須拓馬	60

著書・論文一覧	66
学会発表・抄録	69
臨床病理症例検討会（第425回）	80
生協だより	107
投稿規定について	117

巻頭言

医報編集委員長 那須 拓馬

はじめに

鹿児島生協病院医報第23巻を無事発行することができました。ご協力いただいた皆様に、医報編集委員長として、心より御礼申し上げます。

世界では

2024年、ロシアによるウクライナの侵攻は終息が見えず、パレスチナを取り巻く情勢はますます混沌としており、核兵器の使用さえも危ぶまれる状況が続いています。

そんな中、日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）が2024年のノーベル平和賞を受賞したとのニュースが飛び込んできました。核兵器のない世界を実現するための努力と核兵器が二度と使用されてはならないことを証言によって示し続けてきたことが受賞の理由とされています。私たちも、鹿児島医療生協平和の取り組み実行委員会を中心に、原水爆禁止世界大会への代表派遣など、核兵器の廃絶をめざす取り組みを続けてきました。私も、平和の取り組み実行委員長として微力ながら協力させていただいております。厳しい世界情勢のなかでも、あきらめることなく粘り強く取り組みを進めて行きたいと思います。

国内では

2024年10月4日、日本弁護士連合会が、“「生活保障法」の制定等により、すべての人の生存権が保証され、誰もが安心して暮らせる社会の実現を求める決議”を発出しました。同連合会は、かねてより、生活保護法を権利性の明確な「生活保障法」に改正することを提言してきましたが、その後の状況の変化を踏まえ、生活保護制度が、一時的な困窮に陥った人も含めて誰もが必要に応じて利用しやすい制度となるよう、より豊かな内容を持つ「生活保障法」に改正することをあらためて提案しています。人権の観点から強く共感できる提案であり、詳細についてはぜひ原文を御一読願いたいと思います。

2024年10月27日投開票の衆議院総選挙では、与党の自民党・公明党が過半数を割る結果となり、これまでの政策や裏金問題に対し、国民による厳しい審判が下されました。

鹿児島医療生協・鹿児島生協病院では

2024年、鹿児島医療生協労働組合が50周年をむかえ、2024年5月25日に記念式典が開催されました。労働組合は、労働者の権利を守り、労働者どうしの親睦を深め、団結を強めるという極めて重要な役割を担っています。その存在は、そこで働くものにとってのかけがえのない宝であると同時に、鹿児島医療生協をより強靱な組織とする礎とも言えます。さらに、労働組合は、よりよい社会をつくる原動力としても重要な役割を担っていると考えます。鹿児島医療生協労組の益々の発展を祈念したいと思います。

2024年8月31日には、実に5年ぶりに、第34回鹿児島生協病院夏祭りを開催することができ、地域から本当にたくさんの方々に御参加いただきました。また、研修医の先生方の尽力で、医局からも模擬店を出店することができ、リアルの素晴らしさをあらためて実感しました。

おわりに

私ごとですが、2024年9月に、肝臓への多発転移をともなう腓神経内分泌腫瘍であることが判明いたしました。2025年1月現在、治療をすすめながら、出来る範囲で病理の仕事の続けさせていただいている状況です。この8年ほど医報編集委員長として医報の発行に携わってきましたが、編集委員長としてかわるのはこの第23巻が最後になると思います。これまで発行に御協力いただいた皆様に、あらためまして心より感謝いたします。

私たちの学術活動のレベルを確認し、未来に向かう力とするため、次期編集委員長にも医報の発行をしっかり継続していただきたいと思います。皆様には、今後とも医報の発行にお力添えいただくことをお願いし、巻頭言といたします。